

は、既に学際的分野に移行していると考えられるからである。

### 7. おわりに

日本—インドネシア共同の、衛星画像による資源調査の当面の成果と課題について略述した。この共同研究は現在も継続中であり、ここに述べていない未整理の多くの情報に囲まれている。共同研究者の協力を得て、できるだけ早く、その成果を国際的に公表していきたいと考えている次第である。

本稿中、テクスチャ解析は地殻熱部宮崎芳徳氏が算出したものであり、重力解析システムは地殻物理部駒沢正

夫氏のシステムを地質工学研究開発センターの Edy M. Arsadi 氏と共に使用させていただいた。写真の一部は、地殻熱部村岡洋文氏の撮影したものをわせていただいた。X線粉末回折は地質工学研究開発センターの Bambang S. Kartadiredja 氏と共に解析した。MSS 画像のリニアメント判読は同センター Kardi Suhariono 氏との共同作業である。記して厚く感謝の意を申し上げます。

#### 文献

Djumhani (1981) Metallic Mineral Deposits of Indonesia: A Mettallogenic Approach. Report of Geological Survey of Japan, No. 261, p.107~124.

## 地学と切手

### ジオロジー諸島の切手

P. Q.



ジオロジー諸島と銘うたれた切手が、仏領南極から発行されている。通常の相当大きなアトラスにも記載されていない。切手を良く見るとジオロジー諸島とは、南極大陸のすぐ北にある一群の島の総称でフランスの南極観測基地ジュモン・デュアビル基地のある所と判った。

フランスが領有を主張している南極は東経 136°12' から 142°02' にわたる扇形の地域である。これをアデリー地域と呼んでいる。アデリーとはアデリー・ペンギンのアデリーであり 1840 年にここを発見したジュール・ジュモン・デュアビル大尉の妻の名前である。フランスは 1934 年にこの領有を宣言した。1950 年に観測基地を一度設置したが、1952年に焼失してしまった。4 年後に建設されたのがジュモン・デュアビル基地であり現在に

至っている。磁極もこの近くにあり地球物理学上重要な地域である。

ジオロジー諸島の島は科学者の名前がつけられているのが多い。基地の置かれている最大の島は Ile des petrels (ウミツバメ島) であるが、名前をつけられた科学者には以下の者がある。

クラウデ・ベルナル (Claude Bernard 1813-1878) 生理学者で脂肪消化における胆汁の機能、肝臓の糖生産などの業績がある。

ビュホン (Buffon 1707-1788) 18 世紀最大の博物学者自然のほとんどのもの人類から鉱物に至るまで考察した。生物の自然発生説や惑星の太陽起源説として知られている。

ラマルク (Lamarck 1744-1829) 博物学者進化論の不用説を唱え、進化学説についての最も重要な導火線となった。

キュビエ (Cuvier 1769-1832) 古生物学者 動物の比較解剖学の創始者進化論では天変地異説で知られる。他にジャン・ロスタン (Jean Rostand) 島などがあ

る。切手は1971年に発行された。ついであるがジオロジーに関する地名としてジオロジチェスキーと言う町がシベリアのオホーツク海に近い内陸部にあることをつけ加えておきたい。